

令和3年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学 校 番 号	81	学 校 名	県立水海道第一高等学校			課 程	全日制		学 校 長 名	高橋 淳						
教 頭 名	市川 英樹		倉持 訓					事務室長名	大塚 裕之							
教職員数	教諭	59	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	3	実習教諭	1	事務職員	4	技術職員等	4	計	73
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	21				
	普通科		146	134	130	141	118	152			394			427		
			280		271		270				821					

2 目指す学校像

<ul style="list-style-type: none"> ・将来を担う人材を育成する学校 ・地域に貢献する学校

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項 目	現 状 分 析	課 題
学習および進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「校内相互授業参観」を行っているが、参観数は増えてきたが、各教科内の研修を深める必要がある。 ・成績上位者への課外や添削指導の成果が出てきており、全体の底上げにプラスに作用している。 ・家庭学習時間1・2年次3時間以上、3年次5時間以上を目標としているが、達成されていない生徒の割合が多い。 ・国公立大学合格者数(現役88名)は昨年より大幅に増加し、個別試験出願者数も例年より増加した。首都圏私立大学志向が継続しているなか、例年にはないほどに私立大学への合格者が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した指導方法、指導体制の改善をすること。 ・学習意欲を高め、計画的な家庭学習をさせること。(生徒のライフスタイルに合わせた学習時間の確保) ・難関国立大、難関私立大の受験にも対応できる学力を身につけさせ合格者数を増加させること。
基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談を通して生徒理解を図るとともに、自主・自立の態度育成に努めている。 ・挨拶の励行、服装指導等を通じ、社会人として必要なマナーを身につけさせるよう努めている。 ・登校指導を通じて、遅刻数は減少したが、欠席数が増加傾向にある。 ・精神的なケアを必要とする生徒が増加する中、特別支援コーディネーターと養護教諭が中心となり、スクールカウンセラーと連携し対応に当たっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活を中心とした基本的な生活習慣を確立させること。 ・安心安全な生活環境を創造すること ・メンタルヘルスクアを充実させること。
特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会各種委員会活動の活性化に向け組織の充実を図ったが未だ不十分である。 ・運動部、文化部ともに活発である。部活動加入率は80%以上に達している。 ・地域に貢献すべく、部活動単位・個人単位で市内外でボランティア活動に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HR活動・生徒会活動・各種委員会を充実しより活性化させること。(教員の負担を勘案しながら、自主的な活動を目指す) ・地域行事へのボランティア活動を通じて、自己理解・自己管理能力をより充実させること。
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な広報活動および開かれた学校作りを推進したが、志願者数は1.15倍となり昨年より微減となった。 ・授業公開、学校説明会および定期的なホームページの更新を通じ、保護者・地域に情報発信をしている。 ・保護者の積極的な学校行事への参加がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる広報活動と情報公開をすすめ、本校教育活動への理解と協力を促すこと。
働き方改革について	<ul style="list-style-type: none"> ・学習および進路指導に係る教員の関与の仕方に一定の歯止めを設けながら、効率的な時間の配分を考慮する必要がある。 ・生徒の意欲に応えるべく教員に過剰な負担をかけているような場面も見受けられる。 ・学校として取り組むべきことと保護者や地域が主体的に係ることとの峻別が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が自律的に進路目標を設定し達成できるよう仕向けることで、教員に過剰な負担がかからないよう配慮すること。 ・保護者と学校の協力体制の充実を目指すに当たって、両者が均等に係るような仕組みの構築すること。

4 中期的目標

- ・ 生徒が主体的に将来の自分の生き方を見出すことができるよう、キャリア教育の充実を図る。
- ・ 見通しをもった授業計画により、生徒が知る喜び・会得する喜びのなかから学びを深め、進路実現を図る。(国公立大学100名以上、私立難関・主要大学100名以上合格)
- ・ 人としての生き方在り方を考えさせるとともに、豊かな人間性を育むための道徳教育や学校行事の充実を図る。
- ・ 将来を担う人材育成の場として地域から期待される学校をめざし、地域との共存・協働・共栄を意識した活動の充実を図る。
- ・ コンプライアンスへの意識向上とともに、働き方改革の成果を実感できるよう実践や工夫を図る。
- ・ 中高一貫教育校として6カ年教育の経営に全力を注ぎ、新たな魅力ある学校づくりを推進する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
授業の充実と学習習慣の確立	① 言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう授業の工夫・改善をし、ICT化の推進により「わかる授業」を展開する。
	② 単位制のメリットを活かし、生徒各自が興味・関心・進路希望等に応じた科目を学習させる。特に、数学科・英語科および学校設定科目においては少人数授業を展開し、きめ細かな指導を充実させる。
	③ 自学自習の習慣化を図り、自主学習時間を増加させる。自主学習時間の目安を、1・2年次3時間以上、3年次5時間以上とする。
	④ 生徒の進路希望実現のため、平常日・長期休業中における組織的・計画的な課外および全員参加による土曜課外を実施する。
	⑤ <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育としての大学見学会や進路希望別ガイダンス等を実施する。 ・ 生徒自身が積極的に活動できるような仕組みを構築し、自ら進路実現を目指す意識を醸成する
基本的生活習慣の確立	⑥ 登校指導等を通して基本的生活習慣の確立を図り、皆勤生徒数の増加を図るとともに、海高生として品位ある行動を確立させる。
	⑦ <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任と生徒による個別面談を通して一人一人の悩みや不安に寄り添い、生徒理解に努める。(年間3回以上) ・ 教育相談体制を充実させ専門家の積極的・効果的な活用と関係機関との連携に努める。
特別活動の充実	⑧ <ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動やホームルーム活動、学校行事を通して、明るく豊かな健康作りや体力を作りを実践し、生涯にわたりスポーツに親しむためのキャリアプランニング能力を育成する。その実現のため、キャリアサポートを積極的に活用する。 ・ HR活動・生徒会活動・各種委員会の活性化および自主的な活動を支援しながら、人間関係形成・社会形成能力を高める。
保護者・地域との連携の推進	⑨ <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校説明会、ホームページの定期的な更新および広報誌等を通して中学校開設に係わる情報を含めて積極的に発信する。 ・ 学校と地域役割分担を明確にした上での連携を推進し、生徒の積極的なボランティア活動を推進する。
コンプライアンスと働き方改革について	⑩ <ul style="list-style-type: none"> ・ 体罰等のない指導を心がけ、教科指導をはじめ部活指導などにおいて生徒の健全な育成を実現する。 ・ 制約された時間の中で計画的な活動ができるよう意識するとともに、課題対応能力の形成を目指す。